

令和8年度 かほく市立宇ノ気小学校 学校評価

重点目標	取組内容	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準
1 新しい時代に必要となる資質・能力の育成	ア 教科の見方・考え方をふまえた共通の軸のもと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた授業を工夫する★	学習指導部	教員は、児童が主体的に学べるように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業づくりに取り組んでいる。その結果、以前に比べ児童は主体的に授業に取り組んでいる。今後は、意欲だけでなく、教科の見方・考え方をふまえた学習になるように工夫する必要がある。	【努力指標】教員 児童が学び方を選択して課題を解決することができるように、教科の見方・考え方を働かせる授業づくりの工夫に努めている。 【努力指標】児童 友達と相談したり、自分でやり方を決めたりする授業を楽しんでいる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	イ 様々な場面や方法でアウトプットさせることで、「伝える力」を育成する	学習指導部	相手意識をもって話す力、相手の意図を理解しながら聞く力に課題が見られる。	【努力指標】教員 思いを表現する場や学んだことを伝える場を設定している。 【努力指標】児童 授業で学んだことを自分で表現している。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	ウ 授業や家庭学習でICTを効果的に活用する	情報担当	授業のねらいを達成するための、ICT端末・機器の積極的な活用はできてきたので、児童一人一人の実態に応じた効果的な活用を推し進めていく。	【努力指標】教員 クロームブックを使った効果的な活用を行っている。 【努力指標】児童 クロームブックを授業に役立てている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
2 生徒指導の充実	ア 基本的な生活習慣の（話を聴く、いいあいさつ、協力）の定着に努める	生徒指導部	昨年度からあいさつをする児童が増えてきた。反面、あいさつをしない児童が目立つようになってきた。また、安全ボランティアや来校者へのあいさつを進んでできる児童が少ない。	【努力指標】児童 自分から進んでいいあいさつをしている。 【努力指標】保護者 子供は挨拶をしている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・保護者評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	イ いじめ・不登校の組織的対応及び気になることの「報・連・相」を徹底する★	生徒指導部	学校生活で気になることや児童同士でのトラブルなどを管理職・学年間・保護者へ丁寧に報告・連絡している。気になることは必ず管理職・学年間・保護者へ報告・連絡することを継続する。	【努力指標】 児童の気になることに対して管理職・学年間での情報共有、また保護者への電話、面談、訪問など速やかな対応を行っている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合 A95% B85%以上95%未満 C75%以上85%未満 D75%未満
	ウ 様々な場面で発達指示的生徒指導を推進し、児童の安心・安全な居場所づくりに努める	生徒指導部	グループエンカウンターやナイス見つけ等を行いながら、共感的人間関係を育てている。ただ、学校が楽しくないと感じている（C,D）児童が約3%（R7後期の結果）いる。	【満足度指標】児童 学校が楽しいと感じている。 【満足度指標】保護者 子供は学校が楽しいと感じている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・保護者評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
3 豊かな心の育	ア 道徳の時間を中心に、道徳教育の充実に努める	学習指導部	昨年度前期は肯定的評価が100%となっていたが、後期は92.5%となった。学年での教材研究、掲示板への「今月の道徳」の掲示を通して、学年共通道徳の実践を進めていかなければならない。	【努力指標】 学年共通道徳を行い、「考え、議論する道徳」の実践に努めている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満

重点目標	具体的取組		主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準
3 豊かな心の育成教育の推進	イ	児童の自信と思いやりの心を育てるため「活躍・挑戦・協力できる場」を設定する	特別活動部	なかよしグループ活動には楽しく参加しているが、異学年で協力し合ったり、助け合ったりする関係が十分にできているとは言えない。	【努力指標】児童 なかよしグループ活動に自分から進んで活動に参加し、異学年の児童と協力して楽しむことができる。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	ウ	地域との交流を積極的に行うことで、郷土を愛する心を養う	主幹	年間計画を立て、2か月に1回は外部人材を活用して学習していく予定である。	【成果指標】教員 郷土の自然・人・モノに触れて学ぶ教育活動を積極的に取り入れている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
4 健康・安全教育の推進	ア	「スポチャレいしかわ」への積極的な参加、委員会の取組等で体力の向上をめざす	特別活動部	全クラス、スポチャレいしかわに取り組んでいるが、頻度に差がある。持久走や縄跳びには全体的に取り組むことができている。体育館や運動場で遊ぶ児童は、概ね決まっている。運動量を確保した授業づくりにより、体力向上が見られる。	【努力指標】教員 スポチャレいしかわ、持久走、縄跳び等に取組み体力向上に努めている。 【努力指標】児童 休み時間や体育の時間に進んで体を動かしている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	児童・教員評価 A+Bの割合の平均 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	イ	食育・健康・安全教育に計画的・継続的に取り組む	保健安全指導部	教員の見守りがあるときは、正しい判断・行動ができるが、休み時間など、子供が自由に行動している際の災害（訓練）については、十分ではない。	【努力指標】教員 地震、火災、水害などの災害や不審者等から自分の身を守るために、子供たちの判断力や行動力を高める指導に努めている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
5 教職員の業務量適正化	ア	全教職員が自己研鑽に励み、学校運営への参画意識を高める	管理職	それぞれ自分の分掌について責任をもち学校運営に参画しているが、学校をよりよくしていくための新たな取組や削減の提案は少ない。	【努力指標】教員 自分の担当に見通しをもち、提案・運営を積極的に行う。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	ア	学校業務の見直し、効率化や業務の平準化をめざし、時間外勤務の縮減に努める★	管理職	業務の見直し等により、全体としては時間外勤務縮減は進んでいるが、一方で二極化を改善する取組は十分ではない。	【成果指標】教員 週3回以上19時00分までに退校している。	A：3回以上 B：2回 C：1回 D：できない	教員評価 A+Bの割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満
	ア	カリマネの充実	主幹	重点単元を学級経営案に位置づけ重点的にカリ・マネの柱「伝える力の育成」に努めている。	【成果指標】教員 カリ・マネの柱「伝える力の育成」を意識し、教科と教科を関連付け、教科横断的に学習を進めている。	A：よくあてはまる B：おおむねあてはまる C：どちらかといえばあてはまらない D：あてはまらない	教員評価 A+Bの割合 A90% B80%以上90%未満 C70%以上80%未満 D70%未満